

7月11日 ◀ 北九州市小倉南区



東谷川広域河川改修事業〔県土整備委員会〕

7月12日 ◀ 行橋市



長峽川(大久保行橋線)被災現場
〔県土整備委員会〕

7月12日 ◀ 京都府菟田町



菟田港新松山地区 都市再開発用地造成事業
〔県土整備委員会〕

8月9日 ◀ 久留米市



久留米筑紫野線 神代橋工区・橋梁整備事業
〔県土整備委員会〕

8月9日 ◀ 久留米市



藤町川・不動川河川改修事業
〔県土整備委員会〕

8月10日 ◀ 東峰村



大肥川被災現場〔県土整備委員会〕

井本宗司大野城市長4選果たす！

平成29年9月3日投開票の大野城市長選挙は、井本宗司市長(現職)が無投票で4選目の再選を果たされました。大野城市のさらなる発展のため、井本市長としっかりとスクラムを組んで参ります。



県政報告座談会のお知らせ

ご予約は不要です。どなたでもご自由に
参加いただけますのでお気軽にお越し下さい。

11/24 金 14:00～15:00 下大利団地公民館

11/27 月 14:00～15:00 井の口公民館

11/28 火 14:00～15:00 南ヶ丘2区公民館

11/29 水 14:00～15:00 仲島公民館

民進党・県政クラブ県議団
福岡県議会議員 **井上博隆** 事務所

いのう え ひろ たか

〒816-0955 大野城市上大利4-2-1 TEL.092-596-9966 FAX.092-596-8710
http://www.inouehirotaka.com/ E-mail:inouehirotaka.onojo@gmail.com

井上 博隆(いのう え ひろ たか) プロフィール

1978年 大野城市上大利生まれ
1984年 のぞみ愛児園卒園
1990年 大野城市立大利小学校卒業
1993年 大野城市立大利中学校卒業
1996年 西南学院高等学校卒業
2002年 学習院大学法学部政治学科卒業
2003年 大野城市議会議員
2011年 福岡県議会議員
2015年 福岡県議会議員二期目

県議会活動

2011～2013 警察常任委員会／空港対策調査特別委員会
2013～2015 総務企画地域振興常任委員会／
景気雇用対策調査特別委員会
2015～2017 議会運営委員会
総務企画地域振興常任委員会(副委員長)
生涯健康安心社会調査特別委員会
県土整備委員会／
2017～ こども子育て支援調査特別委員会(委員長)

役職・活動歴

・民進党福岡県第5区総支部 大野城支部長
・元大野城市議会議員
・大野城市商工会青年部
・福岡地区防衛協会青年会
・大野城ライオンズクラブ
・福岡大野城ボーイズ顧問 など

福岡県議会議員(大野城市選挙区)



vol.

26

井上ひろたか レポート

9月
定例議会
より

九州北部豪雨災害に対する補正予算 一般会計補正予算の額は687億9,600万円余※

※うち約90%強が豪雨災害復旧・復興対策

9月定例議会・平成28年度決算特別委員会報告

9月11日から10月13日まで33日間の日程で9月定例議会ならびに平成28年度決算特別委員会が開催されました。

本定例会に上程された議案で最も重要なものは、7月に発生した九州北部豪雨災害に対する補正予算です。豪雨災害の復旧・復興対策に要する経費を措置したほか、事前防災・減災に係る公共事業の追加、地域活性化の推進に必要な経費を措置しました。一般会計補正予算の額は687億9,600万円余となっており、うち約90%強が豪雨災害復旧・復興対策のためのものとなっています。

また、今議会では9月29日から10月11日までの日程で平成28年度決算特別委員会が開催され、私も委員として審査に臨みました。



被災者の生活支援

応急仮設住宅の建設や支援物資の提供、避難者の健康相談、介護などの配慮が必要な方々に一時避難先として旅館・ホテルを無償提供するための経費。

被災商工業者への支援

県の制度融資に経営再建や設備復旧等のための低利融資枠を創設し、保証料については県が全額補填。また、小規模事業者が販路開拓のために行う商品開発等に対する助成費を新たに計上し、事業継続を支援。さらに、宿泊キャンセルなど深刻な影響が発生している被災地の観光復興のため、旅行商品の割引を支援する「ふくおか復興割」の実施に必要な経費を措置。加えて、伝統的工芸品産業の復興を支援するため、被災した小石原焼の窯元が使用する共同窯を設置する等。

被災した農林漁業者への支援

農業用機械やハウス施設の再取得・修繕に対する助成費を計上するとともに被災した果樹改植、野菜・花卉の種苗や流失した家畜用飼料の購入等。

災害復旧事業

道路、河川等の公共施設、農地・農業用施設及び林道の復旧費。土石流が発生した箇所への防災ダムや崩壊した林地への治山施設等の設置に要する経費。道路、河川及び海岸などにおける流木等の災害廃棄物の処理に要する経費。

九州北部豪雨災害に対する
補正予算の主なもの

平成29年7月 九州北部豪雨災害

「平成29年7月九州北部豪雨災害」により多くの尊い命が失われ、今もなお行方がわからない方がおられます。また、家屋や事業所、道路、河川、農地、林地、農業用施設、農作物など、朝倉市、東峰村を中心に県内各地で甚大な被害が発生しました。今回の災害によりお亡くなりになられた方に対し深く哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

県では、災害発生後直ちに、自衛隊、消防等関係機関と連携した人命救助、緊急復旧工事を実施するとともに支援物資の提供、応急仮設住宅の建設など、被災された方への緊急的な生活支援に取り組んできました。

また、テレビ等でも報道された通り、復旧・復興の大きな妨げとなる膨大な量の流木については、撤去のための仮置場を確保するとともに、チップ化等を行った上で発電燃料やセメント原料などとして活用していくこととしており、被災市町村や事業者と連携しながら速やかな処理に向けて取り組んでいます。

加えて、国、自治体、関係機関、企業、ボランティアの皆様には被災地での支援活動に携わっていただくとともに、国内外の多くの皆様から多額の義援金が寄せられましたことに心から感謝申し上げます。このような善意溢れる支援の継続こそが被災地の一日も早い復旧・復興に繋がるものであると信じ、私も活動していきたいと思いをします。



井上博隆は
こう考える！

平

成29年7月九州北部豪雨災害において受けた本県の被害額は1,900億円を超えられています。本県は様々な面からの被災者支援をおこなっておりますが、県だけの力では如何ともしがたい今後の課題を3つ提起します。

①家屋の解体・撤去に対する公費補助。全壊と判定され罹災証明書を受けた家屋の解体撤去については公費解体となるが、半壊家屋については全額自己負担となるため。

②河川の改良復旧。今回の災害で、県管理18の河川が被災し、流域に大規模な浸水被害をもたらした。このうち7河川は5年前の豪雨災害でも被災していたが、改良復旧が行われていたのは1河川のみで、残りの6河川は原形復旧しか行われていなかった。



桂川



平榎地区



甘木吉井線

主な被害状況（9月22日現在）

人的被害／48件
死者34名 負傷者10名 行方不明者4名

家屋被害／1,696件
全壊242件 半壊824件 床上22件 床下555件 等

道路被害／769件 橋梁被害／42件

河川被害／460件 土砂災害／207件

③治山ダム・砂防ダムの重要性。治山ダムは森林の維持・造成を図ることを目的に、砂防ダムは産地からの流出土砂や流木を捕捉することを目的としている。今回の被災地域では治山ダムが朝倉市に471箇所、東峰村に173箇所、治山ダムが朝倉市に95箇所、東峰村に30箇所設置されていた。航空写真や現地調査によって、これらのダムが土砂や流木の流出を防止しており、下流の被害を軽減する効果があった。逆に言うと、これらのダムが無ければ、被害はさらに大きなものになっていたと考えられる。



大雨特別警報 について

「平成29年7月九州北部豪雨災害」においては気象庁から九州初となる「大雨特別警報」が発令されました。この、大雨特別警報は、台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予測され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予測される場合に発表されます。しかし、認知度が低かったこともあり、迅速な避難行動に結びつかなかったという指摘もありますので、気象に関する特別警報をお知らせ致します。

気象等に関する特別警報の発表基準

現象の種類	基準
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合
暴風	暴風が吹くと予想される場合
高潮	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により高潮になると予想される場合
波浪	高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合

(注)発表にあたっては、降水量、積雪量、台風の中心気圧、最大風速などについて過去の災害事例に照らして算出した客観的な指標を設け、これらの実況および予想に基づいて判断をします。

工事進捗状況 県営五ヶ山ダム

那珂川町に位置する県営五ヶ山ダムが完成間近です。五ヶ山ダムは、洪水調節機能、既得取水の安定化機能、河川環境の保全機能、水道用水の新規開発、異常渇水時の緊急水の補給等の目的を持った多目的ダムです。総貯水容量は4,020万m³で福岡地区水道企業団へ日量10,000m³供給することとなっています。平成28年10月から試験湛水を開始していましたが、ようやく1/3ほどの水が溜まりました。あと1年半ほどで満水となる予定です。

伝統的工芸品

小石原焼

koishiwarayaki

「平成29年7月九州北部豪雨災害」で多くの窯元が被災した「小石原焼」は福岡県が誇る「伝統的工芸品」です。

「伝統的工芸品」とは、次の要件を全て満たし、伝統的工芸品産業の振興に関する法律(昭和49年法律第57号、以下「伝統法」という。)に基づく経済産業大臣の指定を受けた工芸品のことをいいます。

伝統的工芸品とは

- 主として日常生活で使用する工芸品であること。
- 製造工程のうち、製品の持ち味に大きな影響を与える部分は、手作業が中心であること。
- 100年以上の歴史を有し、今日まで継続している伝統的な技術・技法により製造されるものであること。
- 主たる原材料が原則として100年以上継続的に使用されていること。
- 一定の地域で当該工芸品を製造する事業者がある程度の規模を保ち、地域産業として成立していること。

福岡県には経済産業大臣が指定した伝統的工芸品が7つ(博多織・博多人形・久留米絨・八女福島仏壇・八女提灯・上野焼・小石原焼)あります。小石原焼は17世紀から創り始められたといわれ、「流し釉」「刷毛目」「飛びかんな」などに特徴があります。今年7月には地元陶工の代表的な存在である福島善三さんが人間国宝に認定され大きなニュースになりましたが、近年の小石原焼は優秀な若手後継者の努

力により「刷毛目」や「飛びかんな」等の伝統的な手法を踏襲しながらも現代的なデザインや独自のデザインを多く発表しており、全国からも注目が集まっています。春と秋の年に2回「民陶むら祭り」を開催していますが、それ以外の時でも各窯元は常時販売を行っておりますので皆様もぜひ復興支援の一環として、小石原へ行き、その素晴らしい作品に触れてください。



井上博隆「小石原焼」コレクション。
少しずつではありますが
収集しています。